

事務事業評価シート

(H.30)No.	7013-3	(H.29)No.	7013-3
-----------	--------	-----------	--------

事務事業名	介護老人保健施設ゆりの里 (病院事業会計)		
担当部局名	担当室名	室長名	
市立病院事務局	ゆりの里(総務室)	中嶋 知子	

会計区分	事業コード	023801
病院事業会計	(中事業名)※予算書事業名	
款		
項	(小事業名)	
目		

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	1	支え合い健康でいきいきと暮らせるまち
	基本施策	2	保健・医療・福祉のネットワークづくり
	施策	3	地域医療
重点プロジェクト			

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
要介護状態の高齢者等が、介護・看護・リハビリ等のサービスを通じその人の有する力に応じた自立支援・家庭生活への復帰をめざし、居宅サービス事業者と連携しながら、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを支える事を目的としています。
事業内容
・施設サービス:介護を必要とする高齢者等の自立を支援し、家庭復帰をするため、医師による医学的管理の下、専門職による看護・介護・リハビリテーション、また、栄養管理・食事・入浴等の日常生活上のケアサービスを提供します。 ・在宅サービス(通所リハビリテーション・短期入所療養介護):居宅介護サービス計画に基づき通所・短期宿泊の方法で医師による医学的管理の下、必要なリハビリテーション・介護・入浴・食事等のサービスを提供します。

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

主な事業の実績・計画	H.29年度(事業量・取組実績)	H.30年度(事業量・取組計画)	事業内容		
	<ul style="list-style-type: none"> 入所者数 (年間利用者延べ人数) 14,886人 うち短期入所者数 101人 通所者数 (年間通所者延べ人数) 1,411人 	<ul style="list-style-type: none"> 入所者数 (年間利用者延べ人数) 16,890人 うち短期入所者数 330人 通所者数 (年間通所者延べ人数) 1,748人 	<ul style="list-style-type: none"> 施設サービス:介護を必要とする高齢者等の自立を支援し、家庭復帰をするため、医師による医学的管理の下、専門職による看護・介護・リハビリテーション、また、栄養管理・食事・入浴等の日常生活上のケアサービスを提供します。 在宅サービス(通所リハビリテーション・短期入所療養介護):居宅介護サービス計画に基づき通所・短期宿泊の方法で医師による医学的管理の下、必要なリハビリテーション・介護・入浴・食事等のサービスを提供します。 		
			H.31年度(事業計画)	H.32年度(事業計画)	H.33年度(事業計画)
			<ul style="list-style-type: none"> 入所者数 (年間利用者延べ人数) 16,890人 うち短期入所者数 330人 通所者数 (年間通所者延べ人数) 1,748人 	<ul style="list-style-type: none"> 入所者数 (年間利用者延べ人数) 16,890人 うち短期入所者数 330人 通所者数 (年間通所者延べ人数) 1,748人 	<ul style="list-style-type: none"> 入所者数 (年間利用者延べ人数) 16,890人 うち短期入所者数 330人 通所者数 (年間通所者延べ人数) 1,748人

	H.29年度(決算見込)		H.30年度(作成時予算額)		H.31年度(計画予算)	H.32年度(計画予算)	H.33年度(計画予算)
	H.28繰越分	H.29現年分	H.29繰越分	H.30現年分			
①直接事業費		100,485千円		111,381千円	111,381千円	111,381千円	111,381千円
内訳 (千円)	国・県支出金						
	地方債		2,400		0	0	0
	その他()		81,129		97,772	97,772	97,772
一般財源	0	16,956	0	13,609	13,609	13,609	13,609
人工数	職員		14.30人		14.80人	14.80人	14.80人
	臨時職員等		13.40人		20.20人	20.20人	20.20人
②概算人件費	0千円	177,476千円	0千円	196,546千円	196,546千円	196,546千円	196,546千円
①+②総事業費	0千円	277,961千円	0千円	307,927千円	307,927千円	307,927千円	307,927千円

4. 担当室による事務事業の点検

考察(H.29年度の取組評価、課題、施策への貢献、市民との協働など)
・入所者数は、昨年度に比べショートステイを含め90人減少となった。(入所262人増・ショート352人減)減少した要因のひとつとして、4月当初の介護職員不足が影響したと考えている。その後は職員も定着し、順調に利用者数を増やしていた。在宅介護をしている家族を支えるためのショートステイについては、利用者が、特養施設に入所したり入院などにより当施設のショートステイの利用が叶わず、ショートステイの利用者が減少したことにより入所者総数が減少してしまった要因と考えている。
・自宅への退所者も昨年度より若干微減したが、在宅サービスを利用しながら「家で暮らしたい」という希望を実現させることができた。
・H29年度は介護職員の人員体制は安定していた。この状態を維持するためにも、介護職員の待遇や質の向上に向けた取組が必要である。

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合(予定含む)、休止(予定含む)、廃止(予定含む)、事業完了(予定含む)	継続(改善)
---	--------

今後の対応方針(課題解決への取組内容、具体的な見直し内容、継続の理由等)
・引き続き、高齢者が病気やけがなどで市立病院等の医療機関で入院治療を終えたあと、養生しながらリハビリ・健康管理等のサービスを提供しつつ、本人・家族が望む生活が叶うよう支援します。また、在宅介護者の支援も行い、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、居宅介護支援事業者と連携しながら支援していきます。
・介護職員のレベルアップやモチベーションが続くよう、研修などの参加機会を増やし資格取得の支援を行ったり、職場環境を整え働きやすくなるよう引き続き対応します。

6. 事務事業の取組に関する市の計画

--